

真珠リフレッシュクロス による 真珠の艶だし及び修復法

真珠の光沢(艶)が鈍るという現象は、その固有の真珠構造とさまざまな環境要因の相互関係によって起こります。

環境要因の主たるものは広い意味での「酸」であり、それは私たちの汗や手のアブラであったり、空気中の水分の湿度変化による結露であったりするわけです。

いま、この「酸」による真珠構造の変化を便宜上2つの段階に分けてみます。

第1段階は、表面のカルシウム結晶の縁の部分が溶けた状態です。この段階では肉眼で見てもほとんど光沢が低下したことは判りません。しかし、当初の段階より表面は粗い状態になっており、光の散乱は起きています。磨いてみてはじめて光沢低下が判るというレベルです。

第2段階は、カルシウムの層が、数十個レベルで崩壊(溶解)している状態です。肉眼で見ても光沢の低下ははっきり判りますし、溶けたカルシウムが再び表面に析出していますから、真珠は全面的あるいは部分的に白い粉をふきだしたように見えます。

以上の各レベルでの光沢低下を修復し、本来の光沢や艶をとりもどすにはどうしたらよいのでしょうか。

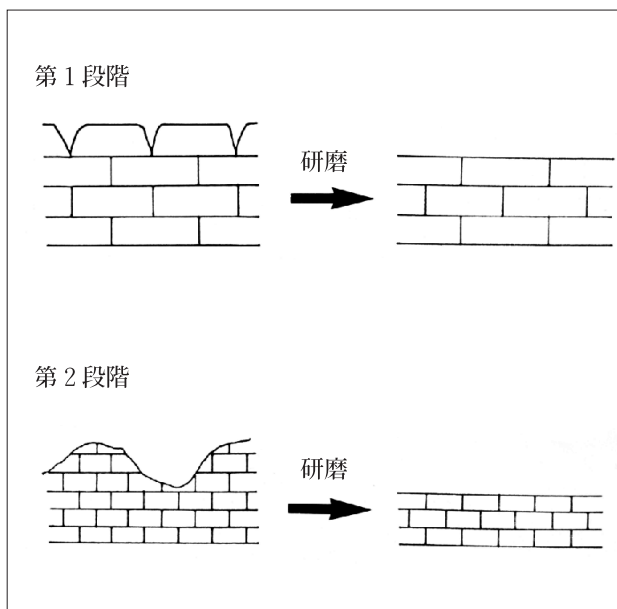
一言で言えば表層部の凹凸をとりさり、平滑へいかつにしてやればよいのです。

さいわい真珠層はカルシウム結晶とたんぱく質が交互に積みかさなっていますから、新しい真珠層を出すことは比較的容易なことです。これは例えばキャベツやラッキョウのように傷んだり汚れている皮をむき取って新しい皮をだしてやるようなものです。

パールリフレッシュクロスは、研磨剤が布の中にしみこませてありますから、この真珠層をむくという働きをします。

真珠層を“むく”といっても、一層は約0.3~0.5ミクロン(1ミクロンは1000分の1ミリ)の厚さですので、むきすぎて核が見えてしまうといった心配はご無用です。

ただし、肉眼でも核が透けて見えてしまっているような、あまりにもまきが薄い真珠に対しては、念のため使用をお控え下さい。



【図12-1】

